

第1部

環境基本計画の進捗状況

第1部 環境基本計画の進捗状況

1 環境基本計画の概要

「福井県環境基本計画」は、平成7年3月に制定した「福井県環境基本条例」における「豊かで美しい環境の恵沢の享受と継承」、「環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築」、「地球環境保全の推進」の3つの基本理念の実現を目指すため、同条例に基づき、策定するものです。

本県では、平成9年3月に最初の環境基本計画を策定し、平成15年1月および平成20年11月に2回の改定を行いながら、様々な環境保全施策を展開してきました。

平成20年の改定以降、東日本大震災や、新興国の経済発展などによるグローバル化の影響等により、地球温暖化、エネルギー、廃棄物、生物多様性などの環境問題が改めて注目される中、平成25年11月、環境基本計画を見直しました。

(1) 計画の基本目標

計画の基本目標

前計画では、「県民の手で守り育てる美しい福井の環境」を基本目標に掲げ、県民総ぐるみで省エネ活動や自然保全活動などを進めてきました。その結果、エコファーマーの登録件数日本一（環境への負荷が少ない農業の広がり）や生き物冬水田んぼなど、少しずつではありますが、その成果も見え始めてきました。

また、平成25年9月に本県で開催されたSATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ第4回定例会合では、参加者等から、本県の里山里海湖や豊かな自然、伝統文化などが評価されました。今後も、自然や文化をはじめとした本県の環境を守り育て、世界にアピールすることを目指していきます。

美しい福井の環境を県民の手で守り育て、世界にアピール

(2) 施策の展開

環境基本計画では、「計画の基本的事項」をはじめ、自然環境、地球温暖化、循環型社会、水・大気環境、環境教育の各分野において、計画期間中に特に力点を置いて進める「重点プロジェクト」、重点プロジェクト以外の施策も含め、計画期間中に実施すべき施策を分野ごとに示す「分野別施策の展開」、巻末には、これら施策を着実に実施するための計画の推進体制等について表記しています。

第1編 計画の基本的事項

- 1 計画の構成
- 2 計画策定の背景
- 3 基本目標
- 4 計画期間
- 5 他の計画等との関係

第3編 分野別施策の展開

- 第1章 自然と共生する社会づくりの推進
- 第2章 地球温暖化対策の推進
- 第3章 循環型社会の推進
- 第4章 生活環境の保全
- 第5章 環境を思い行動する人づくり
- 第6章 横断的・基盤的な施策の推進

第2編 重点プロジェクト

- 1 里山里海湖の研究・活用プロジェクト
- 2 地球温暖化対策推進プロジェクト
- 3 ものを大切にする社会づくり強化プロジェクト
- 4 「水を守る」プロジェクト
- 5 環境教育推進プロジェクト

第4編 計画の推進

- 1 計画の推進体制
- 2 計画の進行管理
- 3 環境指標

(3) 計画期間

平成25年度（2013年度）～平成29年度（2017年度） 5年間

2 重点プロジェクトの進捗状況

1 里山里海湖の研究・活用プロジェクト【自然環境課】

人と自然が適切に関わることによって維持されてきた里山里海湖（さとやまさとうみ）の自然環境は、経済発展に伴う開発や過疎化・高齢化による人の営みが失われることにより荒廃し、里山里海湖に生息してきた動植物の減少が進んでいます。里山里海湖の研究・活用プロジェクトを通して、このような問題を改めて見直し、どう解決すべきかを考え、行動することで、全国に誇れる本県の里山里海湖の魅力を次の世代に伝えていきます。

①里山里海湖研究所の開設

県では、平成25年に行われた「SATOYAMA国際会議 in ふくい」を契機として、同年10月、若狭町の三方湖畔に「福井県里山里海湖研究所」を設置しました。本県の里山里海湖の恵みの価値を再認識し、生物多様性の確保と科学的な知見をもって、美しい風土を残しながら地域のみんが元気になることを目指しています。



里山里海湖研究所HP
<http://satoyama.pref.fukui.lg.jp>

②里山里海湖研究所の取組み

研究所は、本県の生物・生活・経済・景観の4つの多様性を育むため、「研究」「教育」「実践」を3つの大きな柱に、子どもから大人までが気軽に集う「地域を元気にする実学研究」の拠点として、積極的に活動しています。

○研究分野

研究所では、4人の研究員が中心となり次の研究を進めています。

研究の内容

- 環境考古に関する分野
年縞をもとに、過去の気候と人の暮らしの関わりを解明し、これからの生活に活用する研究
- 保全生態に関する分野
県全域にわたる、里山里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究
- 里地里山文化に関する分野
県内を中心に、里に伝わる伝統（農法、漁法等）、文化、習俗等の資料を収集、整理し、県民の生活に活かす研究
- 森里海湖連環に関する分野
森里海湖連環を守る伝統的知識の評価および衰退した里海湖資源の保全に関する研究



研究活動発表会

○教育分野

研究所では、「里山里海湖を体感し、感性を育む」ために次のような事業を行っています。これにより、里山里海湖の魅力を子どもたちに伝えるとともに、地域の保全再生を担うリーダーを育てていきます。

- 里山里海湖学校教育プログラムの活用促進
小中学校の校外学習に活用できる体験プログラムを作成し、全小中学校で活用を促進
- 「残そう・伝えよう！」身近な生きもの調査
モデル校（県内21小学校）において、学校周辺の身近な生き物や気候を継続して調査することでその変化



生きもの調査

◆第1部 環境基本計画の進捗状況

を体感し、自然環境を守る意識を育むための調査を実施

- 県民による生きもの歳時記調査

季節ごとに異なる生きものや人の営みを発見することを通じて、身近な里山里海湖に目を向けていただくため、季節に応じて見られる生きものの情報を募集

- 里山里海湖リーダーズカレッジ

地域で頑張る自然再生団体等のレベルアップを図るため、リーダー育成の連続講座を実施

- 出前講座

研究員等が小・中学校や公民館など地域に出向き、里山里海湖に関する講座を開催



里山里海湖リーダーズカレッジ2017

○実践分野

里山里海湖の保全・再生に頑張る地域や団体を応援し、ともに活動することで、里山里海湖を次世代へ継承していきます。

- 福井ふるさと学びの森

自然体験・自然観察・自然再生に県民自らが参加し、楽しみながら、人の暮らしと自然との関わりを学ぶ「福井ふるさと学びの森」を全ての市町に設け、里山に触れ親しむ機会を提供。

研究所が運営する若狭・あわら・奥越の3エリアに加え、平成28年2月には県内の自然再生活動団体等が運営する里山30か所を「福井ふるさと学びの森」として登録

- ふるさと研究員の認定

地域で活躍する達人を「ふるさと研究員」として認定し、研究所とともにその技や生業の意味合いを伝承

- 里山整備資機材の貸し出し

里山保全再生活動を行う者に対し、ウッドチップパーや薪割り機などの活動に役立つ資機材の貸し出しを実施

- 里山里海湖活動者表彰

里山里海湖の保全・活用等に取り組む活動者を顕彰するため、平成26年度から「ふくい里山里海湖活動表彰」を実施



福井ふるさと学びの森（若狭）



平成29年度
里山里海湖活動表彰

③SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク

里地里山の生物多様性の保全・利用の取組みを国民的取組みへ展開するためには、国内における多様な主体がその垣根を越え、様々な交流・連携・情報交換できる場が必要です。

平成25年9月に福井県で開催されたSATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ第4回定例会合を契機に、福井県と石川県の両知事が代表を務め、民間企業、NPO・NGO、研究機関、行政機関等の組織が参画する「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」が設立されました。

ネットワークには平成30年1月現在111団体が参加し、自然再生の先進地の視察や、里山里海湖の保全・再生活動に関するシンポジウムの開催、環境関連の展示会での活動PRなどを行っています。

平成29年は11月にラムサール条約登録湿地である中池見湿地（敦賀市）で自然再生活動の視察、プラザ萬象（敦賀市）においてシンポジウム「里山里海湖活動における資金確保と多様な主体の協働」を開催しました。また12月に東京国際展示場で開催された環境展示会エコプロ2017に出展し、里山保全活動をPRしました。



中池見湿地でのエクスカーショ
ン（敦賀市）

2 地球温暖化対策推進プロジェクト【環境政策課】

我が国で排出される温室効果ガスの約9割はエネルギー起源のCO₂であるため、本県では、エネルギーの「創り方」と「使い方」に着目した「地球温暖化対策推進プロジェクト」を進めています。

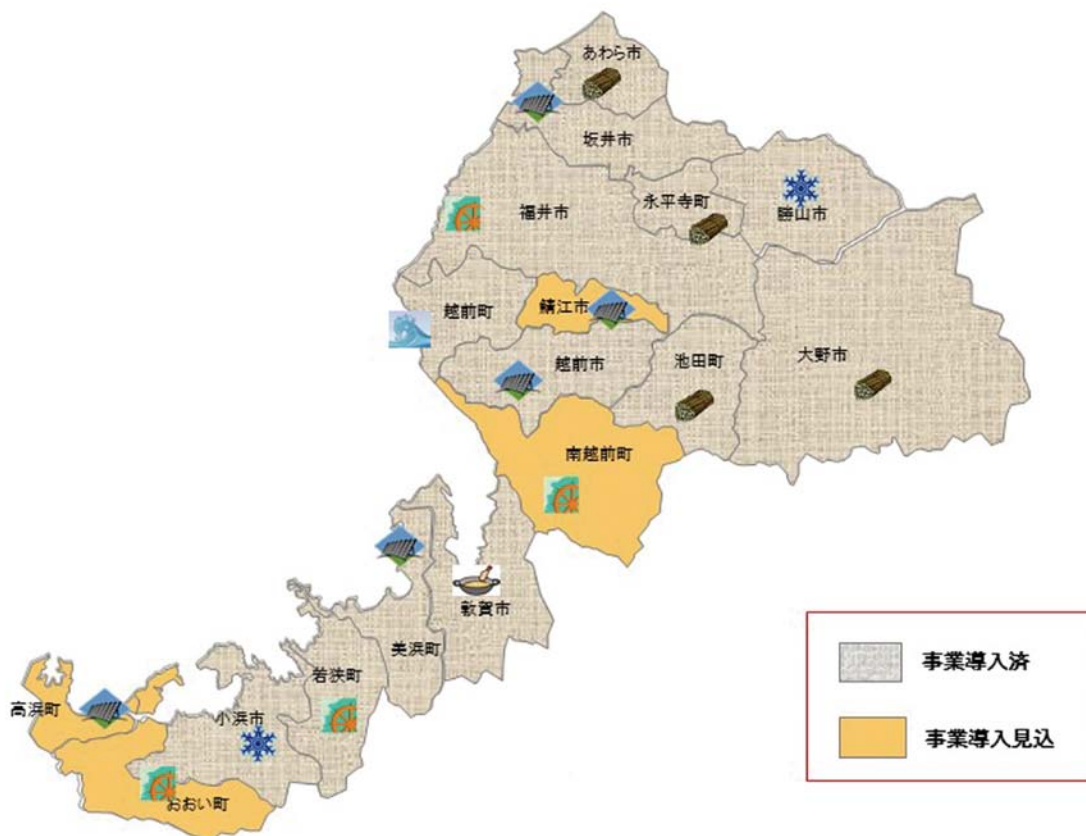
「創る」際にCO₂を出さないエネルギーである再生可能エネルギー(再エネ)については、再エネ事業化を目指す地域の検討・準備過程を支援しており、また、「使い方」に関してはエネルギー消費の大部分を占める運輸部門と産業部門への対策として、車への依存度が高い本県の交通手段の多様化や業種別の中小事業者向け省エネ対策などを推進しています。

①1市町1エネおこし

県では、エネルギー源の多角化を、地球温暖化対策やエネルギー供給力の強化だけでなく、地域経済の活性化(地域おこし)にも役立てるため、「1市町1エネおこし」を進めています。平成29年度は県内7つの地域(福井市、大野市、あわら市(2地域)、坂井市、南越前町、おおい町)を選定し、再生可能エネルギー導入の調査検討を行う地域協議会の運営に対する財政的・技術的支援を行っています。また、これらの協議会相互の情報共有を図り、専門家等からアドバイスや事業化支援情報の提供を

受ける目的で「ふくいまち・エネおこしネット協議会」を設置しており、平成29年度は3回の協議会を開催し、再生可能エネルギーの事業化に向けた検討を進めてきました。

平成24年度から始まった「1市町1エネおこし」では、県内17全ての市町で、太陽光や小水力、木質バイオマス、雪氷熱といった地域に賦存するエネルギーの事業化が進んでいます。今後も、地域経済の活性化に役立つ再エネ導入の取組みを推進していきます。



1市町1エネおこしの取組み状況

◆第1部 環境基本計画の進捗状況

②自転車利用などによる低炭素の街づくりの推進

短距離のクルマ利用を抑制するため「福井バイコロジスト」宣言による「自転車で3キロ運動」を推進しています。国体・障スポ大会のメイン会場である福井運動公園へ自転車でってもらうため、サイクリングイベントの開催やマップの配布により、おすすめのサイクリングルートを紹介しています。

また、駅やバス停に併設する駐車場等の整備を支援することにより、パークアンドライドを推進するとともに、県施設等の駐車場を活用したパーク&サイクルライドも実施しています。

③移動に伴うCO₂排出量の「見える化」による交通手段の多様化

スマートフォンに内蔵されたセンサーやGPS情報等から個人の移動に伴うCO₂排出量を「見える化」するアプリ「カーボントラッカー」を、平成27年度に温暖化センター(NPO法人エコプランふくい)、鯖江市、(株)jig.jp、(株)B inc.、SAPジャパン(株)と共同開発しました。

このアプリは、個人の移動手段(電車、バス、自動車、自転車、徒歩)や移動距離をセンサー等の情報で自動識別し、CO₂排出量を表示します。これにより、個人の意識や行動の変化を促し、公共交通機関や自転車利用への転換を進めるとともに、移動手段・経路などのデータを属性情報(性別および年齢)も加えて分析し、将来的に交通政策や地域振興にも役立てていくことを目標としています。

平成29年度は、個人の意識醸成や移動手段の転換を促進するため、ホーム画面の改良を行い、新たに診断機能として公共交通機関利用のアドバイス等が表示されるようにしました。

また、収集したデータをもって、関係機関(行政、大学、民間企業等)と集積データの活用方策(インフラ整備計画等への有効利用)の検討を行いました。



アプリ画面の例(ホーム画面)



アプリ画面の例(1日のログ)

3 ものを大切に作る社会づくり強化プロジェクト【循環社会推進課】

県民一人ひとりが「ものを大切に作る社会づくり」に自主的に取り組むことで、大切な資源を有効活用し、「ものを大切に作る」ライフスタイルの定着した社会づくりを進めています。

①おもちゃの病院

おもちゃの修理を通して、子どもたちに、ものを大切に作る気持ちを伝えるため、県内各地の「おもちゃ病院」を支援しています。

県では、おもちゃの修理を行う「おもちゃドクター」を増やすために、修理技術者養成講座を年2回程度開催しています。

また、平成27年9月には、県内6つのおもちゃ病院による、「福井県おもちゃ病院協議会」が設立され、技術、情報の意見交換や相互交流を行っています。



おもちゃ修理の様子

平成29年度には、新たに小浜市および若狭町、越前町を中心に活動する、2つのおもちゃ病院が設立されました。現在、県内では8つのおもちゃ病院が各地域で定期的におもちゃ病院を開催しています。

②「まごころ古本市」の開催

県民の皆様からお譲りいただいた古本を販売する「まごころ古本市」をアオッサや若狭図書学習センターなどで開催し、ものを長く使う文化の定着を図っています。平成28年度からは、各回の古本市で、「ふるさと福井フェア」や「小説・文学フェア」等のテーマを決めて開催し、新たな利用者の拡大を図っています。

そのほか、民間団体による古本市開催の支援を行い、6団体が県内各地で古本市を開催しています。



まごころ古本市

③まちの修理屋さん

県内全域を対象に、日用品の修理を行っているお店の店名、品目、内容、連絡先等の情報を収集し、平成21年から、ホームページで「まちの修理屋さん」として提供しています。平成28年9月には、地図情報を掲載するなど、見やすく、分かりやすくリニューアルしました。

靴、かばん、家具など19業種444店舗が登録されていますので、修理でお困りの時に、ご利用ください。

ふくいまちの修理屋さん 検索



まちの修理屋さん

④おいしいふくい食べきり運動の展開

「食べきり運動」発祥の本県が全国に呼びかけ、平成28年10月に設立した「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」は、会員自治体が47都道府県、273市区町村に拡大しました。

本協議会では、今年度新たに、全国チェーンの飲食店、食品小売店に対し、小盛メニュー設定や、ばら売り・量り売りの充実など「おいしい食べきり運動」への協力要請を行いました。

また、平成29年8月には、全国の自治体職員約50名を対象とした「食べきり塾」を福井市において開催しました。県連合婦人会が行っている、保育園でのおいしく食べきるための学習会を見学したほか、日本の食品ロスの現状の講義、「おいしいふくい食べきり運動」のこれまでの取り組み紹介などを行い、「おいしい食べきり運動」に関する理解を深めていただくとともに、本県発の運動を全国に発信し、普及を推進しました。

12月から1月には、「おいしく残さず食べきろう！」を共通キャッチフレーズとして、忘新年会における食べ残しをなくすための全国共同キャンペーンを全国114自治体で実施しました。

また、平成25年度から福井県連合婦人会と連携し、保育園や幼稚園での親子食べきり学習会や地域イベントでの幅広い世代への普及啓発を行っているほか、平成27年度からは、飲食店や食品販売店が月1回以上設定した「食べきりの日」に、「食べきり運動」を重点的にPRするなど、さまざまな団体と協力して運動を展開しています。



◆第1部 環境基本計画の進捗状況

4 「水を守る」プロジェクト【環境政策課】

年間を通じて降水量に恵まれ、湧水・地下水も豊富な本県においては、県内水道の約50.9%が地下水を水源としており、また、県内各地で、古くからの湧水が今も市民に利用されているなど、県民と水との間に、とりわけ深い関係が築かれてきました。県民一人ひとりが、今一度、「いのちの源」である「水」の大事さを再認識するため、県民の参加を得ながら、「水を守る」プロジェクトを推進しています。

①「せせらぎ定点観測」事業

県内の小学生に身近な自然環境、特に河川に対する興味関心を高めてもらい、地域の自然環境の保全を目指す目的で、環境省において開発された「水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）」を使い、地域の河川や用水路で水質や水生生物、景観などを調査し、河川環境の変化を確認する「せせらぎ定点観測」事業を行っています。

平成29年度は、夏休み期間に県内8か所の河川で調査活動を実施しました。県内の環境保全団体と協力し、同じ観測地点で来年度も継続して実施します。

「せせらぎ定点観測」実施団体

- ・環境文化研究所
- ・ノーム自然環境教育事務所
- ・ハスプロジェクト推進協議会
- ・NPO法人森林楽校・森んこ

「せせらぎ定点観測」事業実施校および河川

地区	実施河川	実施日	参加人数
福井1	間戸川	7月21日	15名
福井2	足羽川	8月17日	21名
坂井	竹田川	7月27日	27名
奥越	清滝川*	7月21日	21名
鯖丹	日野川	8月2日	19名
南越	田倉川	7月25日	21名
二州	はす川	7月29日	6名
若狭	南川	7月30日	13名

※平成29年度のみ実施



せせらぎ定点観測の様子（足羽川）

②ふくいふるさとの音風景

自然から聴こえるせせらぎやさえずり、そこに住む人々の方言、祭りの活気など、身近な音から地域の環境を見つめ直してもらい、環境保全への意識向上を図るため、スマートフォンアプリを使った音源とその風景写真（音風景）の投稿を県民に呼びかけています。

平成27年3月に開設した専用ホームページでは、投稿された300以上の様々な福井の音風景を紹介しています。平成29年度は、それらの投稿を踏まえ、県民投票などにより、特に未来に残していきたい東尋坊の波音など「ふくいふるさとの音風景50選」を選定しました。

③「ふくいのおいしい水」の広報

県では、水質基準および管理基準を満たす県内の湧水等を「ふくいのおいしい水」として認定し、県内の優れた水環境を発信しています。

平成29年11月15日に新たに美浜町新庄にある「若狭美浜 新庄やまびこふれあい湧水」を追加認定し、認定地は35か所となりました。



若狭美浜 新庄やまびこふれあい湧水

認定地全箇所において多様な自然、景観、歴史、文化、現在の利用形態などを調査し、平成27年8月にそれらを紹介するパンフレットを作成しました。平成28年に掲載記事・写真を更新した改訂版を増刷しました。

また、これまで地域の人々が湧水とともに歩み、築き上げてきた歴史や文化を、今後継承し、保存していくことを目的に、平成26年度から専門家を認定地域に派遣し、地域が持つ課題の抽出、地域の実情に応じたアドバイスを行い、湧水等を活かした地域活動を支援しています。派遣を契機として、地域主体のイベントや保全活動が展開されています。



アドバイザーの提言を契機に開催された、地域主体の水祭り

コラム ふくいのおいしい水を活用した地域活性化

本県は湧水等が豊富な地域であり、「福井」という県名にも水が豊かなことが現れています。日本海側特有の気候は多くの雨や雪を豊かな山岳にもたらし、河川や地下水を介して、おいしい水を生み出します。この水は古くから人々によって飲み水や生活水として大切に守られてきました。県では、このような貴重な水や、水と共生してきた地域特有の文化を将来へ向け、県内、県外ともにアピールしていくことを目的に、水質基準や管理基準を満たす湧水等35か所を「ふくいのおいしい水」として認定しています。

地域にある「ふくいのおいしい水」の価値をもう一度認識し直し、「自然環境面」と「水と共生してきた人々の暮らし文化」のあり方をそれぞれの地区ごとに調査・考察の上、将来・未来に残すべき重要な資源としての価値観を喚起したいという考えのもと、平成26年度から継続して、地域にアドバイザーを派遣し、水を活用した地域活性化に向けた取組みを各地域においてそれぞれ行っています。

平成29年度のアドバイザー派遣地域と成果

- 若狭美浜 新庄やまびこふれあい湧水 (美浜町)

湧水がある道は、古くから若狭から滋賀を經由して京都へと至る街道であり、その通行人や地元の人々に利用されてきた歴史や、ほとんどが自然林の山々の豊かな自然を調査により確認できた。広報物の作成により、PR活動を支援。また、利用者の安全のため、看板の整備などを提案。
- 篠座神社の御霊泉 (大野市)

地元保全団体に対し、環境保全のセミナーを実施。人々にとって使いやすい環境ではなく、人々と生き物が共生している環境づくりが大切と助言。その結果、団体が実施している「100年先への鎮守の森づくり」事業により、涸れていた水辺が再生され、生き物も戻ってきた。6月30日に「水の感謝祭」を開催。
- お清水不動尊の水 (越前市)

毎月お経を上げる月例祭や、明治の頃から親しまれていた記録が残っているなど、地域に愛されている湧水。その歴史を後世に残すための「水史」の編纂や、若い世代が来てくれるような催しの検討を提案。
- 石神の湧水 (越前市)

平成26年の派遣での提案に基づき、地域が主体となって「石神の湧水感謝祭」を開催。将来へ残していくために、地域住民への普及や持続可能な環境保全活動を提案。

5 環境教育推進プロジェクト【環境政策課】

緑があり、水があり、ふるさとを守る地元の人たちのつながりがしっかりと息づいている—そんな本県は、自然の仕組みを知り、また、如何にすれば人と自然とが共生していけるかを考える上で、理想的な教材に恵まれた所だということができます。

そこで、本県の自然を代表する里山里海湖の素材を活用した体験機会の提供をはじめ、人とのつながりを活かした地域環境学習の継続的な実施、環境美化意識のさらなる定着等を図るため、次のような環境教育推進プロジェクトを推進しています。

①地域環境コーディネーターの育成

県では平成26年度から、地域での環境学習や自然体験活動の継続的な実施のため、環境学習会を企画運営していく人材を育成する、地域環境コーディネータ力向上事業を実施しています。平成29年度は、仁愛女子短期大学准教授の澤崎敏文氏を講師に迎え、「環境をテーマに3ステップで考える 企画力アップセミナー」を開催し、マーケティングの考え方を取り入れながら環境イベントのアイデアをまとめていきました。

鯖江・小浜・敦賀・福井と4つの会場で開催し、公民館職員の方や環境団体職員の方など、合計43名が参加しました。



企画力アップセミナーの様子

②SNSを活用したゴミ拾い活動の推進

県では、日常生活の中で楽しくできる気軽なゴミ拾い意識の向上を図るため、普段評価されることの少ない県民一人ひとりの自主的なゴミ拾い活動を、SNSを活用して情報共有することで見える化したホームページ「クリーンアップふくい～拾ってみねの、ふくいのゴミ～」を平成26年9月から運用しています。(特集参照)

このホームページでは「ピリカ」を通じて報告のあった清掃活動のうち、県内の清掃活動のみを抽出し、活動者数や拾われたゴミの数、活動状況をリアルタイムで表示しています。

平成26年4月から平成30年2月までの間、県内約96,000人により2,300万個ものゴミが拾われています。



「クリーンアップふくい～拾ってみねの、ふくいのゴミ～」ホームページ画面

③「スポーツGOMI拾い大会」の実施

「スポーツGOMI拾い大会」とは、チームで力を合わせ、制限時間内に決められたエリア内でゴミを拾い、その質と量をポイントで競い合う、子どもから大人まで年齢を問わずできる競技です。

県では、平成30年に行われる「福井しあわせ元気国体・障スポ」の開催に向け、きれいな福井県を目指して平成26年度から実施しています。

平成29年度は平成30年度開催の決勝戦の予選会として、国体のプレ大会に合わせて県内6か所で開催しました。「ゴミ拾いはスポーツだ!」のスタート発声とともに競技を開始し、参加者は空き缶やたばこの吸い殻などを分別しながら拾いました。(特集参照)



スポGOMI大会の様子

3 環境指標の進捗状況

環境基本計画では、具体的施策の達成状況を把握するため、環境指標を設定しています。

1 自然と共生する社会づくりの推進

No	指 標 名	基準年度 (H24年度)	実 績 (H28年度)	目標年度 (H29年度)
1	自然再生支援隊登録者数	71人	83人	100人
2	生き物百葉箱の参加団体数	89団体	169団体	120団体
3	生き物ぎょうさん里村認定集落数	22集落	47集落	40集落
4	県内の自然再生協議会数	1団体	2団体	2団体
5	遊休地を活用したビオトープを整備する団体数	—	22団体	30団体
6	農村における地域共同の環境保全向上に取り組む集落数	895集落	864集落	920集落
7	「多自然川づくり」の整備延長	54km	58km	59km
8	ため池の外来魚駆除等モデル地区数	5地区	13地区	10地区
9	山ぎわの見通し改善を行う集落数	510集落	600集落	730集落
10	針広混交林化の面積	26ha(H25)	518ha	900ha(H31)
11	重要伝統的建造物群の保存	117棟	160棟	174棟

2 地球温暖化対策の推進

No	指 標 名	基準年度 (H24年度)	実 績 (H28年度)	目標年度 (H29年度)
1	温室効果ガス排出量	8,652千 t (H22)	10,458 t (H25) (8,469 t)	—
2	温暖化防止実行計画の策定市町	14市町	14市町	17市町
3	業種別省エネ研究会の設置数	—	5研究会	5研究会
4	スーパーや家電小売店等における省エネイベント等の実施回数 (H25～)*	—	184回	120回
5	電気自動車の導入台数	366台	1,507台	1,800台
6	電気自動車急速充電器の設置数	24台	75台	40台
7	カー・セーブ参加企業・団体数	213企業・団体	251企業・団体	250企業・団体(H26)
8	「福井バイコロジスト」宣言者数	754人	1,553人	1,000人(H26)
9	間伐材生産量	72千m ³	128千m ³	140千m ³ (H31)
10	「1市町1エネおこし」による再生可能	2市町	10市町	17市町
11	エネルギー導入市町数	119施設	364施設	150施設

*温室効果ガス排出量については、H24から算定方法を変更しています。() 書きは従来の策定方法による排出量です。

◆第1部 環境基本計画の進捗状況

3 循環型社会の推進

No	指 標 名	基準年度 (H24年度)	実 績 (H28年度)	目標年度 (H29年度)
1	一人一日当たりごみ排出量* ¹	906g (H25)	891g (H27)	863g (H32)
2	一般廃棄物のリサイクル率* ²	17.0% (H25)	16.1% (H27)	20.0% (H32)
3	一般廃棄物最終処分量* ³	29千 t (H25)	29千 t (H27)	25千 t (H32)
4	産業廃棄物排出量* ⁴	2,895千 t (H25)	2,895千 t (H25)	2,895千 t (H32)
5	産業廃棄物再生利用率* ⁵	45.1% (H25)	45.1% (H25)	45.6% (H32)
6	産業廃棄物最終処分量* ⁶	63千 t (H25)	63千 t (H25)	52千 t (H32)
7	雑がみ回収実施市町数	11市町	17市町	17市町
8	県リサイクル認定製品の販売額	8,744百万円	6,848百万円	11,000百万円
9	「食べきり運動」の県民認知度	40%	71%	60%
10	10t以上の不法投棄の新規発件数	3件	0件	0件

* 1～6については、「福井県廃棄物処理計画」に基づくこととします。

4 生活環境の保全

No	指 標 名	基準年度 (H24年度)	実 績 (H28年度)	目標年度 (H29年度)
1	海水浴場の「適」達成率	100%	100%	100%
2	北潟湖・三方五湖のCOD環境基準達成率	56%	50%	63%
3	下水道の処理人口普及率	74%	78.7%	79%
4	新たな地下水汚染地区数	—	0地区	0地区
5	地盤沈下地域の沈下量	3mm	0mm	0mm
6	光化学スモッグ注意報発令回数*	0回	0回	0回
7	PM2.5測定局数	6局	10局	10局
8	水質事故件数	14件	4件	0件
9	「せせらぎ定点観測」の実施校数*	—	46校	30校
10	「ふくいの音風景50選」の活用イベント数*	—	34回	30回
11	「ふくいのおいしい水」保全活動数*	18地区	34地区(全認定地)	35地区
12	「水守」認定団体数	—	34団体	20団体

*印の指標値は、計画実施期間（H25～H29）における累積の数値です。

5 環境を想い行動する人づくり

No	指 標 名	基準年度 (H24年度)	実 績 (H28年度)	目標年度 (H29年度)
1	保育園および幼稚園が行う親子自然体験の実施園数*	—	55園	40園
2	大学等における環境教育関連講座等*	—	7講座	3講座
3	環境教育を学校教育計画に位置付けている小中学校数	115校	273校	300校
4	SNSを活用したきれいなまちづくり活動参加回数*	—	67,682回	100,000回
5	クリーンエリア宣言事業所数	1,364事業所	1,464事業所	2,000事業所
6	みどりネットアクセス件数（トップページ）	94,856件	79,015件	95,000件

*印の指標値は、計画実施期間（H25～H29）における累積の数値です。